

森林レンジャーがゆく (122)

「山から聞こえる鳴き声？」



秋から初冬の午後3時を過ぎるころに森から「ピー」と、ちょっと物悲い鳴き声が聞こえてきます。早ければ9月中旬から聞こえてくるこの声の主は「ニホンジカ」で、繁殖期になったことを知らせる鳴き方です。

夏の間、シカはオス群れと、子供を連れたメス群れに分かれて生活しています。殖期になるとオス群れの中でも力のあるオスが、他のオスを追い出して自分のテリトリーを作り、メス群れを招き入れて繁殖(交尾)をします。これは強いオスが自分の遺伝子を残すため、群れで暮らす野生動物の当然の行動です。だれが強いかを決めるために、森の中ではオスジカ同士が角を突き合わせて戦い、敗れたオスはテリトリーの外に退場することになるようです。この時に自分のテリトリーを宣言する強いオスが「ピー」と鳴き、そのオスに戦いを挑む別のオスも「ピー」と鳴きます。

オスジカの戦いで重要になるのが「角」です。戦うときにこの角を相手の角と絡めて首を捻ったり押ししたりして戦います。角同士がぶつかり「カチャカチャ」と大きな音を立てながら、「フーフーフー」と荒い呼吸音を出して戦っています。

この時期のオスジカは角の手入れをするためか、植林地のヒノキで角研ぎを繰り返します。角を研いでも相手を突き刺す戦いではないように思いますが、角でヒノキの外皮を剥ぎ取り、露出した硬い木部に擦りつけて角研ぎを行っています。首を上下させて角の先端を木に擦り付けるためか、木部についた傷は僅かに弧を描くようになります。ツキノワグマのクマ剥ぎに似ていますが、ツキノワグマは肩、肘、手首があり垂直に爪痕を付けることが出来るので、目が慣れてくると容易に区別がつくようになります。

繁殖期が終わると、それまで戦っていたオスたちと、メス群れが1つの群れになって越冬群れとして冬季の少ない餌を分け合いながら仲良く冬を越します。春になるとメスは出産期を迎えてメス群れを作り、オスはオス群れとなり、別々の群れとして夏を越すのがシカの群れの変遷です。

秋から初冬にかけて「ピー」と聞こえてくるシカの鳴き声には、森の中のドラマが隠されています。